

インドネシア，アイルランガ大学との学術交流協定締結について

中村 典史

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻 顎顔面機能再建学講座
口腔顎顔面外科学分野

アジアへ開かれた玄関口としての特色を活かし、鹿児島大学はアジアで活躍する人材育成を大きな教育目標の一つに掲げている。また、昨今のグローバル化の中で、医学・歯学教育においても他国との連携が求められる時代となり、他大学との学術交流が盛んに行われるようになった。鹿児島大学歯学部では、インドネシア、スラバヤ市のアイルランガ大学（エアランガ大学の呼び名もある）歯学部と学術交流協定を締結し、教員や学生の交流を開始した。本稿では、その経緯と今までの実績について報告する。

アイルランガ大学歯学部との学術交流協定までの経緯

アイルランガ大学歯学部は、人口300万人、インドネシアで第2の都市スラバヤ市にある国立大学で、1948年インドネシア大学の医学部、歯学部分校として設立された大学である。歯学部の歴史は古く、前身は1928年オランダ統治時代に開校した歯学校で、第二次世界大戦時の日本軍統治時代には、「Ika Sika Daigaku（医科歯科大学）」という名前と呼ばれたという。



アイルランガ大学のロゴ

2012年、アイルランガ大学歯学部長 Coen Parmono 教授から、鹿児島大学口腔顎顔面外科に口唇口蓋裂の医療体制の確立と、口唇裂口蓋裂手術の技術移転のためのサポートの依頼があった。その際、以前、鹿児島大学歯学部歯科矯正学教室の伊藤学而前教授の指導のもとで学位を取得した Mieke Sylvia 教授（現アイルランガ大学歯学部矯正科教授）の仲立ちにより、両大学歯学部間に学術交流協定が結ばれることとなった。

アイルランガ大学歯学部における学術交流協定締結式

2012年11月、鹿児島大学から島田和幸歯学部長、田中卓男副病院長、杉原一正元研究科長と著者は、スラバヤ、アイルランガ大学歯学部を訪問し、学術交流協定の締結を行うことになった。折しもインドネシアのバリ島で第10回アジア口腔顎顔面外科学会が開かれていたので、杉原一正教授と著者はバリ島で島田歯学部長、田中卓男副病院長と合流してスラバヤへ向かった。スラバヤは近代的なビルが建ち並ぶ大都市であったが、自然も多く残された静かな街の印象であった。

11月19日、調印式に先立ち、アイルランガ大学内の講堂で、「Update in Basic & Clinical Dentistry - Collaboration of Kagoshima University Japan and Universitas Airlangga」と題した学術セミナーが執り行われた。鹿児島大学からは訪問した4名が特別講演を行い、また、アイルランガ大学の教員も日頃の研究成果を紹介しあった。その最中に、鹿児島大学歯学部とアイルランガ大学歯学部との学術交流協定締結式が催され、島田和幸歯学部長と Coen Parmono 歯学部長による調印式が執り行われた。鹿児島大学からは、記念として白地に金刺繍の薩摩焼の香炉がアイルランガ大学に贈呈され、アイルランガ大学からも記念の盾が鹿児島大学に贈呈された。

11月20日には、アイルランガ大学学長の表敬訪問、ならびに医系キャンパスにおいて歯学部見学が催された。歯学部生の臨床実習の現場では、学生が積極的に患者の治療に携わっている姿が印象的であった。また、病院内には、学生用診療棟、教員による専門診療棟、さらに新規に建設されたVIP患者用の豪華な歯科診療棟など、患者のランクに分けていくつも外来診療棟があることとても興味深かった。最後に、在スラバヤ日本領事館を訪問し、今回の鹿児島大学とアイルランガ大学との学術交流の報告と今後の支援を依頼して、今回の学術交流が終了した。



学術交流締結式の島田歯学部長と Coen 歯学部長



1928年オランダ統治時代を記念する建物



アイランガ大学歯学部へ贈られた薩摩焼の香炉（中央）

アイランガ大学歯学部との学術交流の内容



アイランガ大学の鹿児島大学長訪問



アイランガ大学本部の前で

2012年12月14日には、アイランガ大学から Coen Parmono 歯学部長と Mieke Sylvia 教授が鹿児島大学歯学部を訪問し、歯系大学院発表会において Coen Parmono 教授がアイランガ大学歯学部のカリキュラム等について講演を行った。その際には、将来的な歯科におけるグローバル化について討論され、参加した本学の教員が海外の歯科教育の事態を認識する良い機会となった。その後、アイランガ大学からの訪問団は、吉田浩己鹿児島大学長を表敬訪問した。

次いで、2013年8月26日には、再び鹿児島大学から、鳥居光男研究委員長、小松澤均研究体制委員長、著者の三人ならびに、6年生の品川憲徳君がアイランガ大学を訪問した。前回と同様に、アイランガ大学では「Contemporary clinical treatment based on basic science」と題した学術セミナーが催され、各教授が臨床ならびに基礎研究に関する講演を行った後、今後の留学生の受け入れなどの具体的な話し合いがもたれた。

学術セミナーでは、アイルランガ大学歯学部教員の講演も行ったが、いずれも英語は極めて堪能であった。学生の品川憲穂君も歯学部の学生と交流する機会を持ったが、アイルランガ大学の学生達は英語を喋ることには全くの抵抗がなく、日頃から友人通しでは英語で会話する機会も多いという話は新鮮であった。



丁寧講義される鳥居教授



インドネシア語で「Sekarang saja(今でしょ)！」



アイルランガ大学セミナー主催者と



アイルランガ大学歯学部入学生と記念撮影

2013年8月28日からは、著者は品川憲穂君を連れて、インドネシアのヌサトゥンガラ地方のスンバワ島に移動し、ドンブという町でアイルランガ大学歯学部口腔外科チームの口唇口蓋裂ボランティア手術の医療活動に参加した。スンバワ島は、バリ島の東に位置し、コモドオオトカゲで知られるコモド島の西隣にある島である。以前から口唇口蓋裂患者が多く出生することが知られており、井戸水の亜鉛濃度が高いことが原因ではないかということであった。病院には多くの口唇口蓋裂児が待機しており、病院に着くなり、すぐに診察を開始し、全身状態をチェックした後手術着に着替えて、手術が始まった。手術は、全身麻酔のできる手術台3台と局所麻酔用の1台を用いて、3日間に亘って行われたが、全ての患者を手術し終えた時には、朝の2時半を回っていた。ボランティア手術に励むアイルランガ大学の若い口腔外科医の澆刺とした姿に好感がもたれ、口唇裂、口蓋裂の手術についての技術移転も十分に行われた。同行した学生の品川憲穂君にとっても大変貴重な経験となり、若い世代の交流が、将来的に広くアジアの医療の発展に繋がって欲しいと思われた。なお、品川憲穂君の体験談は、鹿児島大学歯学部HP <http://www.hal.kagoshima-u.ac.jp> の「エアランガ大学訪問記」に掲載されているので、興味をお持ちの方は一読いただきたい。



口腔外科スタッフを指導しながらの手術風景



現地医師の手術アシストをする品川君



アイランガ大学口腔外科のメンバーと



手術が終わって喜ぶ患者、家族と一緒に